西幼だより

令和８年６月２９日
新潟市立西幼稚園

【教育目標】
しなやかに
たくましく

ブログも見てね！
（西幼稚園 HP）

思いを広げ、考えをめぐらせて

園長　　渡邊　舞

子どもたちは、じっくりと目の前の「こと」や「もの」に向き合って、黙々と何かを繰り返したり同じ場に佇んだりしていることがあります。一見すると、「何をしているのかな？」と思うような姿。実はその手元や表情に近づいてみると、「おもしろい」「こうしたらどうなるだろう」「不思議だなあ」「どうしてかな」「次はこうしてみよう」等、溢れんばかりの心の声が伝わってきます。まるで、その対象と対話するかのような時間は、思考を深めている時間であり、思考のプロセスそのものです。「なぜ？どうして？」「○○かもしれない」と自分なりの問いを見つけ、仮設をたてながら、思いを広げ、考えをめぐらせている大切な時間なのです。

ある日、水平に置いてある雨どいに年少さんが水を流し入れていました。しかし流れが悪く、それでは満足しない様子でした。そばにいた年長さんはその様子を見ていて、雨どいを少しだけ傾けて持ち始めました。年長さんはその後も、年少さんが水を流す度、雨どいの角度を変え、流れ方を確かめていました。繰り返しその様子を観察した後「こうすると、速く水が流れるんだよ」と傾斜を急にしながらつぶやき、その後も雨どいを持ち続けていました。繰り返し、水の流れ方を見ながら、「高低」が必要なこと、傾斜によって水の勢いが変わることを体験を通して気付いたのでした。

保育室では、カラーセロファンやプラスチック製の飲料容器に色を塗って懐中電灯の光をあて、色や光り方を比べているお友達がいます。遠足のマリンピア日本海で見たゆらめく光を遊びの中でも楽しむかもしれないと準備しておいた素材がきっかけとなって、光のおもしろさを感じながら遊んでいます。プラスチックの容器をいろいろな角度で照らすことで、光が大きくなったり、色の濃淡が変わること、容器に水を入れるとさらにきれいな光がうまれることにおもしろさを感じている子どもたち。虹のようにカラフルに色を塗ったプラスチック容器を立てたり、寝かせたり、転がしてみたりすると、感嘆の声が上がります。その様子に一人、また一人とその場所に集まってきます。「きれいに色を塗った容器をいっぱい並べるともっときれいになるかもしれない」という仮説を立てるお友達もいました。「よりきれいな光を作りたい」「こうしたらどうなるだろう」と試行錯誤するその場所が、子どもたちによって「ひかりのじっけんしつ」と名付けられたことに思わず納得させられます。「じっけんしつ」では、今日も一人一人が、その子なりのおもしろさを感じ、光と向き合っています。これからも、子どもたちが光に向き合う中で、どんなふうな思考のプロセスをたどり、学びを得ていくのか、とても楽しみです。

子どもたちが思考を深めるプロセスは、実体験によって進んでいきます。幼児期は、答えを出すことが目的ではありません。自分なりに思いを広げ、考えをめぐらせるプロセスに重要な学びがつまっています。思いを広げ、考えをめぐらせることができる時間や場、環境を保障し、急がず、慌てず、ゆったりと支えていきます。今日もじっくりと、対象物に向き合う子どもたち。その姿に将来へと続く可能性を感じずにはいられません。